

令和 2 年 12 月 24 日

各 位

一般社団法人 日本環境アセスメント協会
研究部会長 濱田 敏宏
セミナー委員会委員長 今関 哲夫

令和 2 年度 公開セミナー開催のご案内

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

今回のセミナーは、当協会研究部会の自然環境影響評価技法研究会、条例アセス研究会、制度・政策研究会、新領域研究会の平成 30 年度と令和元年度の調査研究成果の報告を行うものです。

各位におかれましてはご多忙とは存じますが、会員、会員外を問わず、お誘い合わせのうえ多数ご参加下さいますようご案内申し上げます。

敬具

記

1. 日 時：令和 2 年 12 月 9 日（水） 13:30～16:30
2. 方 法：Zoom ウェビナーによるライブ配信
3. 定 員：300 名(先着申込み順)
4. 参加費：無料
5. 申込み：令和 2 年 12 月 4 日までに協会ホームページ内申込フォームにてお申込下さい。
後ほど、ご視聴用及び資料ダウンロード用の URL をご連絡いたします。
申込みフォーム：<https://jeas.org/openseminar/>
なお、この公開セミナーは JEAS-CPD 制度の認定プログラムですので、環境アセスメント士の方は登録番号を記入して申し込み下さい。
参加は、申込んだ方のみとし、当日は、お申込者のお名前でご接続をお願いします。
お申込者以外のお名前や重複したお名前での参加は退出していただくことがありますので、ご注意ください。

以 上

お問合せ先：(一社) 日本環境アセスメント協会事務局

TEL 03-3230-3583

令和2年度 研究部会報告会 次第

- 受付開始 13:00
- 開会挨拶 13:20～13:30
- 発表 13:30～16:30

(1) 自然環境影響評価技法研究会報告 (13:30～14:00)

本研究会では、生物多様性オフセットに着目し、オフセットのしくみの導入可能性検討を目的として、BBOP（ビジネスと生物多様性オフセットプログラム）の事例、国内でのアセス及びアセス以外の場でのオフセット的取組事例の調査や新たな自然環境影響評価技法として、環境DNAを取り上げ、アセスの段階別及び事業別に活用の可能性について研究を行っております。

今回は、研究成果として、①生物多様性オフセット導入に係る研究（国内外の事例調査等）、②環境DNAのアセスへの活用可能性に関する研究について報告します。

(2) 条例アセス研究会報告 (14:00～15:00)

本研究会では、地方の時代に即した条例アセスのあり方に注目し、地域性、独自性に着目した研究・調査を行うとともに、新しい視点での研究にも取り組み、環境コンサルの立場から、条例アセスのあり方、今後の課題等について研究を行っております。

今回は、研究成果として、①ポジティブアセスに関する調査・研究、②条例アセス制度の運用実態に関する調査・研究、③条例アセスにおける周知・住民参加に関する調査・研究、④条例アセス制度における対象事業に関する調査・研究、⑤法改正に伴う条例アセス改正後の手続き制度の調査・研究(その4)について報告します。

(3) 制度・政策研究会報告 (15:00～15:40)

本研究会では、わかりやすい環境影響評価及びその期待される環境配慮の効果について着目し、近年の社会的動向を考慮して、SDGsと環境アセスメント（特に一般市民に支持されるWebサイトのあり方）や過年度に引き続き主務大臣意見の分析及び環境アセスメント諸手続きの緩和の可能性についての研究を行っております。

今回は、研究成果として、①諸手続きの緩和の可能性に関する研究（その2）、②首長・環境大臣・主務大臣意見及び行政審査状況の分析、③SDGs（持続可能な開発目標）に基づく環境アセスメントと一般市民をつなげるWebサイトのあり方検討について報告します。

(4) 新領域研究会報告 (15:40～16:30)

本研究会では、協会の中長期ビジョン、環境アセスメント分野における今後の課題や、新技術の動向等を踏まえ、太陽光発電の事業中断、農村の人口減少・耕作放棄など土地利用変化等に伴う環境影響評価技術、環境アセスメントにおける気候変動に伴う影響検討や累積・複合的影響に関する環境アセスメントの進め方、新技術であるドローンの活用について研究を行っております。

今回は、研究成果として、①再エネ等事業終了後の土地利用変化等に係る環境影響評価技術の検討、②環境調査におけるドローン活用の手引き作成の検討、③環境アセスメントにおける累積・複合影響に関する検討、④環境アセスメントにおける気候変動に伴う影響検討の研究について報告します。